

2019年の大雨

令和元年東日本台風（台風第19号）の影響で東日本や北日本を中心に記録的な大雨

1. 概要

令和元年の梅雨入りは、九州北部地方から近畿地方にかけてはかなり遅く、沖縄地方と奄美地方で遅かった。九州北部地方、四国地方、中国地方の梅雨入りは6月26日ごろ、近畿地方の梅雨入りは6月27日ごろで、いずれも1951年の統計開始以降最も遅かった。一方、九州南部と東海地方から東北北部にかけては平年並か早かった。梅雨明けは、沖縄地方と奄美地方でかなり遅く、九州南部から関東甲信地方にかけて遅かった。沖縄地方の梅雨明けは7月10日ごろで、1951年の統計開始以降最も遅かった。北陸地方、東北南部、東北北部は平年並だった。梅雨の時期（6～7月、沖縄と奄美は5～6月）の降水量は、多い地方が多く、奄美、九州南部、東海、関東甲信の各地方ではかなり多かった。一方、東北北部では少なかった。

8月26日から29日にかけて、九州付近に停滞していた前線の影響で、九州北部地方を中心に大雨となり佐賀県を中心に河川の氾濫、浸水害、土砂災害が発生した。

9月8日から9日にかけて、千葉市付近に上陸した令和元年房総半島台風（台風第15号）の影響で、関東地方南部や伊豆諸島を中心に暴風となり、千葉県では電柱の倒壊が相次ぎ、広い範囲で停電が発生した。

10月12日から13日にかけて、令和元年東日本台風（台風第19号）が伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過した。この影響で、静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生した。

10月24日から26日にかけて、低気圧等の影響により、関東地方から東北地方の太平洋側を中心に大雨となり、千葉県や福島県を中心に土砂災害、浸水害、河川の氾濫が発生した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした

大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁がとりまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、人的被害の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、都道府県名、観測所名とした。

(1) 5月13日～21日：沖縄地方、近畿地方（大雨）＜前線＞

5月13日から21日にかけて、南西諸島付近に前線が停滞し、20日から21日にかけてはこれとは別に寒冷前線が日本付近を通過した。このため、大気の状態が不安定となり、全国各地で大雨となった。13日から19日は、停滞前線の影響により、沖縄地方や九州南部を中心に大雨となり、日降水量が400mmを超える大雨となった所があった。また、20日から21日は、寒冷前線の通過により、西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、各地で日降水量が100mmを超える大雨となった。これらの前線の影響により、土砂災害、浸水害が発生し、人的被害や住家被害があった。（被害の状況は気象庁調べによる）

(2) 5月27日～7月23日：全国（大雨、暴風、高波）＜梅雨前線、台風第3号、第5号＞

5月27日から7月23日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。また、この間、6月27日から28日にかけて台風第3号が、7月18日から19日にかけて台風第5号が日本に接近した。これらの台風や前線等の影響により、各地で大雨、暴風、高波となった。

6月28日から7月5日にかけて、日本付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込み、総降水量が多い所で1000mmを超えるなど、九州北部地方や九州南部で記録的な大雨となった。この大雨により、九州南部を中心に、死者2名、負傷者5名の人的被害のほか、多数の住家被害が発生した。（被

害の状況は令和元年7月31日の内閣府とりまとめによる)

また、7月17日から22日にかけて、日本付近に停滞した梅雨前線や台風第5号の影響で暖かく非常に湿った空気が流れ込み、西日本で大雨となった。特に、九州北部地方では多い所で24時間降水量が400mm近くに達するなど24時間で7月の月降水量平年値を超える記録的な大雨となった。この大雨により、九州北部地方を中心に、行方不明者1名、負傷者6名の人的被害のほか多数の住家被害が発生した。(被害の状況は令和元年7月31日の内閣府とりまとめによる)

※以下、期間内に特に顕著な雨となった期間の気象概況を記載

(2-1) 6月28日から7月5日

6月28日から29日にかけて、梅雨前線は西日本から東日本に停滞した。台風第3号は本州南岸を東へ進み、28日15時に日本の東で温帯低気圧となった。30日から7月3日にかけて、梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、低気圧が前線上を東に進んだ。4日から5日にかけては、梅雨前線が九州南岸へ南下し、前線上の低気圧が九州南部・奄美地方を通過した。これらの影響でほぼ全国的に雨となり、宮崎県では28日から5日までの期間総降水量が多い所で1000mmを超え、九州南部や九州北部地方の多くの所で期間総降水量が400mmを超え、7月の月降水量平年値の2倍となる大雨となった所があった。また、奄美地方では、多い所で日降水量が200mmを超え、四国地方や北陸地方、東海地方、関東甲信地方では、多い所で日降水量が100mmを超える大雨となった。

(2-2) 7月17日から22日

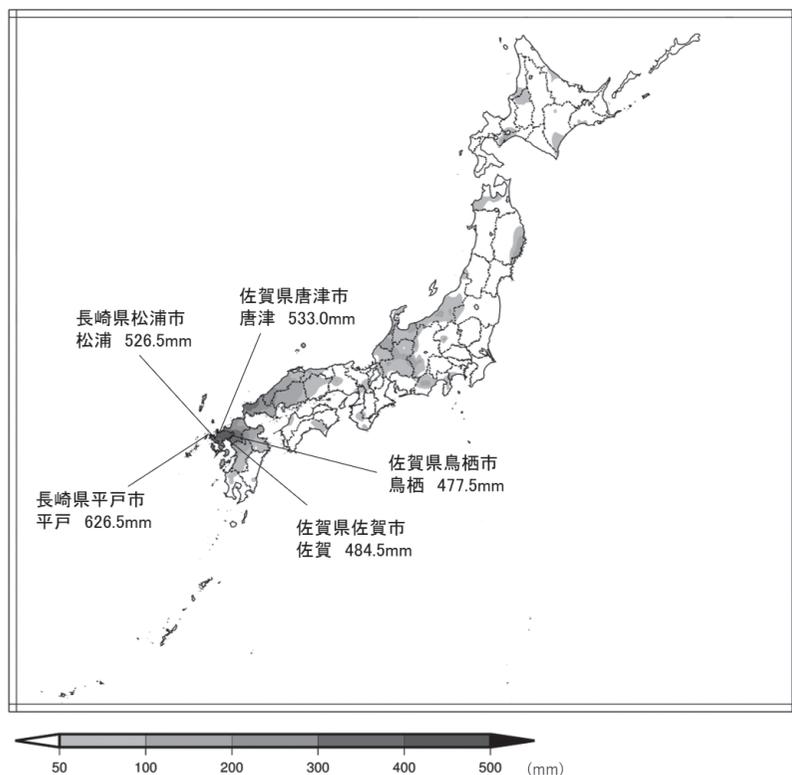
7月17日から19日にかけて、梅雨前線は西日本から東日本にかけて停滞した。また、18日に先島諸島付近を北上した大型の台風第5号が、20日にかけて東シナ海を北上

し、台風の北上とともに前線は日本海から東日本に北上した。台風は21日03時に朝鮮半島で熱帯低気圧となり、その後温帯低気圧に変わった。22日は低気圧からのびる前線が東日本から北日本を通過した。これらの影響で、沖縄・奄美や西日本、東日本では、多い所で日降水量が100mmを超える大雨となり、九州北部地方や四国地方では、多い所で日降水量が300mmを超えた。また、台風第5号の影響により、沖縄県久米島町北原で22.2m/sの最大風速を観測するなど、沖縄地方や九州北部地方、四国地方で、非常に強い風を観測した。

(3) 8月5日～7日：西日本(大雨、暴風、高波)＜台風第8号＞

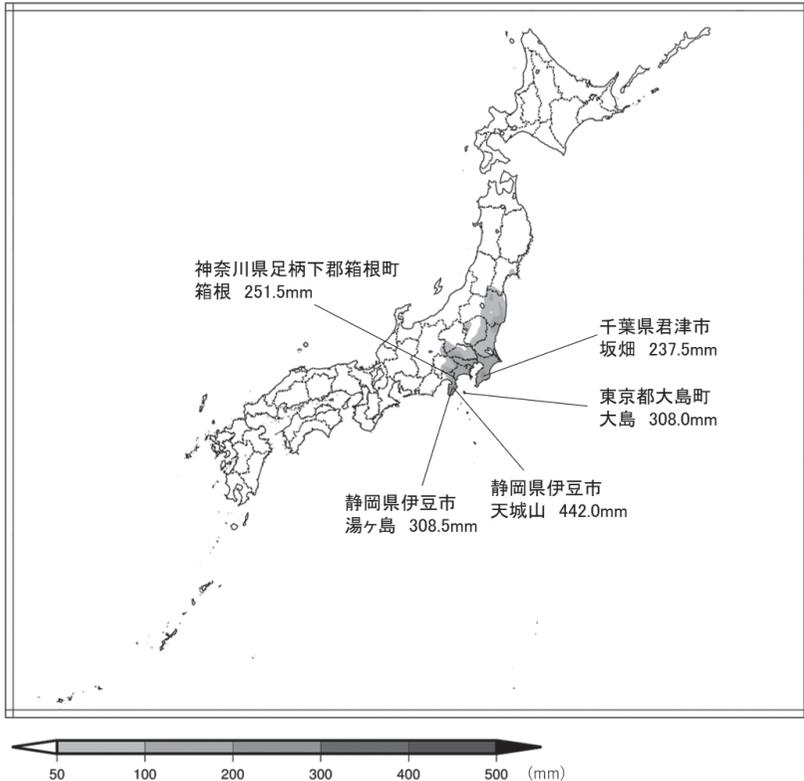
台風第8号は、8月6日05時頃に宮崎市付近に上陸し、九州を北西に進んだ。その後、朝鮮半島を通過し、7日09時に日本海で熱帯低気圧に変わった。

台風第8号の接近・通過に伴い、九州南部では猛烈な雨を観測したところがあったほか、5日から7日ま



※上位5地点については地点名・値を記載

第1図 総降水量分布図 (期間：8月26日～8月29日)



※上位5地点については地点名・値を記載

第2図 総降水量分布図 (期間: 9月8日~9月9日)

での総降水量が多い所で、九州南部から四国地方にかけての太平洋側を中心に200mmを超え、徳島県で400mmを超える大雨となった。また、九州南部や九州北部地方では非常に強い風を観測した所があった。

この台風によって、死者1名、負傷者5名の人的被害が発生したほか、住家被害、交通障害があった。(被害の状況は令和元年8月8日の内閣府とりまとめによる)

(4) 8月13日~9月23日: 全国 (大雨, 暴風, 高波, 突風) <前線, 房総半島台風 (台風第15号), 台風第10号, 第13号, 第17号>

8月13日から9月23日にかけて、日本付近に前線が停滞し、断続的に活動が活発となった。また、この間、8月14日から16日にかけて台風第10号が、9月4日から6日にかけて台風第13号が、9月7日から9日にかけて台風第15号が、9月20日から23日にかけて台風第17号が日本に接近した。これらの台風や前線等の影響

により、各地で大雨、暴風となった。

8月26日から29日にかけて、九州付近に停滞していた前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、九州北部地方を中心に大雨となり、8月の月降水量平年値の2倍を超える大雨となった所があった。特に、28日明け方には九州北部地方に線状降水帯が形成・維持されたため、佐賀県等の複数の観測点で3時間降水量の観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となった。この大雨の影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害が発生し、九州北部地方を中心に死者4名となり、浸水家屋住家被害、農地被害があったほか、停電や断水等ライフラインへの被害や鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害の状況は令和元年12月5日の内閣

府とりまとめによる)

また、台風第15号が9月8日に伊豆諸島に接近した後、9日03時前に三浦半島付近を通過して、9日05時前に強い勢力で千葉市付近に上陸した。この台風の接近・通過に伴い、関東地方南部や伊豆諸島を中心に暴風、大雨となった。東京都神津島で最大風速43.4m/s、千葉県千葉で35.9m/sを観測するなど6地点で最大風速30m/s以上の猛烈な風を観測し、千葉県を中心に19地点で最大風速の観測史上1位の記録を更新した。この暴風の影響で、死者3名、負傷者150名の人的被害があり、千葉県では電柱の倒壊や倒木が相次ぎ、最大約934,900戸で停電が発生したほか、大雨の影響で浸水害や土砂災害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらした台風第15号について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和元年房総半島台風」と名称を定めた。(被害の状況は令和元年12月5日の内閣府とりまとめや令和元年12月23日の消防庁とりまとめによる)

※以下、期間内に特に顕著な雨となった期間の気象概況を記載

(4-1) 8月13日から17日

8月13日に日本の南を北上した台風第10号は、14日から16日にかけて日本に接近し、15日11時過ぎに愛知県佐田岬半島を通過、15日15時頃に呉市付近に上陸した後、日本海を北へ進んだ。その後、台風は16日21時に日本海で温帯低気圧に変わり、17日にかけて低気圧からのびる前線が北日本を通過した。この影響で全国的に雨となり、日降水量が、四国地方の多い所で600mm、近畿地方の多い所で400mm、東海地方や関東甲信地方の多い所で200mmを超える大雨となった。また、四国地方では、風速30m/s以上の猛烈な風を観測した所があり、西日本や北日本では風速20m/s以上の非常に強い風を観測した。

(4-2) 8月26日から29日

8月26日は前線が九州付近に停滞し、27日から29日にかけて前線は北上し対馬海峡付近から東日本に停滞した。この影響で、西日本を中心に全国的に雨となり、日降水量が、九州北部地方や関東甲信地方の多い所で200mm、中国地方や東海地方、東北地方、北海道の多い所で100mmを超える大雨となった。特に、長崎県や佐賀県では26日から29日の期間総降水量が8月の月平均降水量の2倍を超えた。このほか、28日に静岡県三島市で、日本版改良藤田スケールでJEF1の強さの竜巻が発生した。

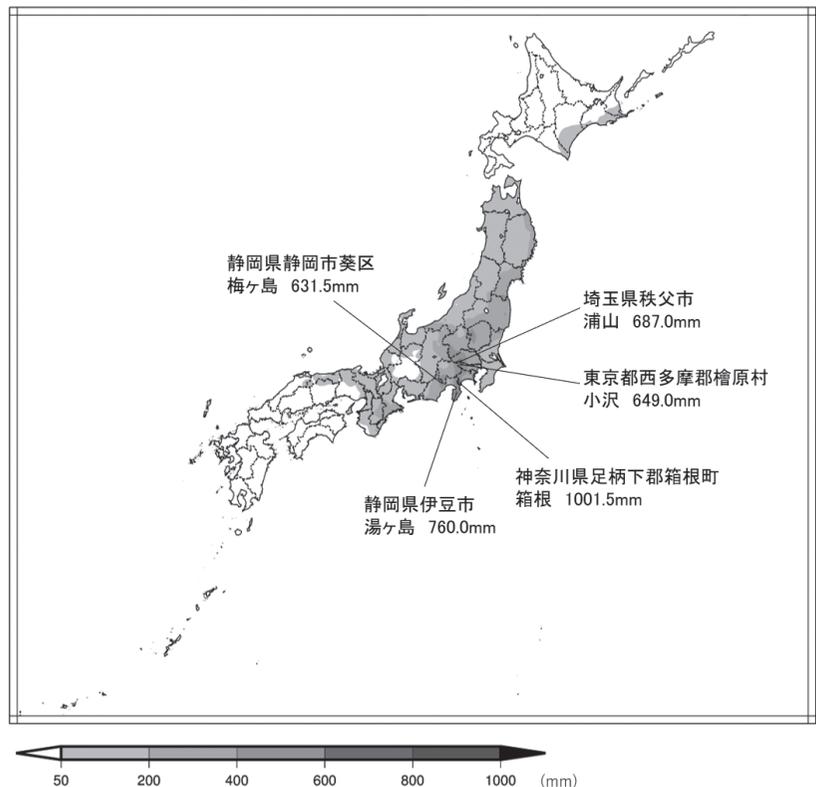
(4-3) 9月3日から7日

9月3日から4日にかけて、前線が北上し朝鮮半島から東日本にかけて停滞し、台風第13号が沖縄の南を北に進んだ。このため、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、九州北部地方や東海地方の多い所で日降水量が100mmを超える

大雨となった。5日は、台風第13号が宮古島付近を通過し東シナ海を北に進んだ。また、前線が北上し華中から朝鮮半島を通り日本海にかけて停滞した。台風や前線に向かって流れ込んだ湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となり、沖縄地方や四国地方、東海地方の多い所で日降水量が100mmを超える大雨となった。また、沖縄地方では風速30m/s以上の猛烈な風を観測し、奄美地方では風速20m/s以上の非常に強い風を観測した。9月6日から7日にかけて、台風第13号が東シナ海から朝鮮半島へ進み前線はさらに北上し、日本海から北海道にかけて停滞した。このため、沖縄・奄美から近畿地方にかけての太平洋側や北海道を中心に雨となり、沖縄・奄美や九州南部、四国地方の多い所で日降水量が100mmを超える大雨となった。

(4-4) 9月8日から9日

9月8日から9日にかけて、令和元年房総半島台風(台風第15号)が伊豆諸島近海を北上し、9日03時前に



※上位5地点については地点名・値を記載

第3図 総降水量分布図(期間:10月10日~10月13日)

三浦半島付近を通過、9日05時前に千葉市付近に上陸した後、日本の東へ進んだ。この台風の影響で、東日本から北日本にかけて雨となり、日降水量が、東海地方の多い所で300mm、関東地方の多いところで200mm、東北地方の多いところで100mmを超える大雨となった。関東地方や伊豆諸島では風速30m/s以上の猛烈な風を観測し、東海地方で風速20m/s以上の非常に強い風を観測した。また、湿った空気の影響で沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、沖縄地方の多い所で日降水量が100mmを超える大雨となった。

(4-5) 9月19日から23日

9月19日に沖縄の南で発生した台風第17号は、20日から21日に沖縄地方に接近した後、進路を北東に変え、対馬海峡を抜けて23日に日本海で温帯低気圧になった。低気圧からのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で全国的に雨となり、日降水量が、四国地方の多い所で500mm、東海地方の多い所で300mm、九州南部、九州北部地方の多い所で

200mm、沖縄地方、中国地方、近畿地方、北海道の多い所で100mmを超える大雨となった。沖縄地方では風速30m/s以上の猛烈な風を観測し、奄美地方から北日本にかけて風速20m/s以上の非常に強い風を観測した。このほか、22日に宮崎県延岡市で、日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの竜巻が発生した。

(5) 9月30日～10月5日：沖縄・奄美、西日本（大雨、暴風、高波）＜台風第18号＞

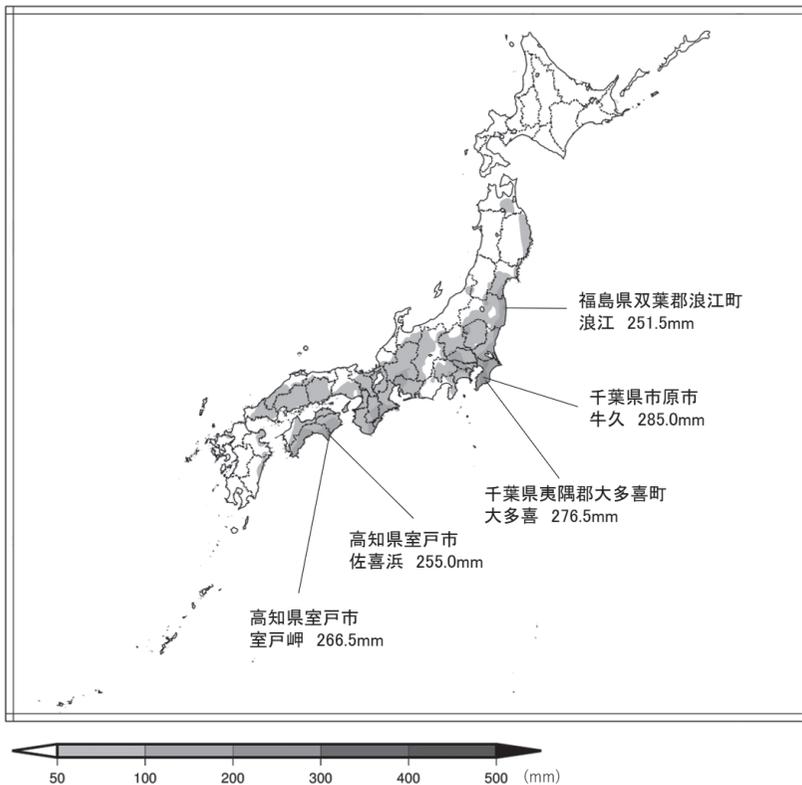
9月28日にフィリピンの東で発生した台風第18号は、30日夜に大型で強い勢力で沖縄地方に接近した後、東シナ海を北上し10月3日朝までに朝鮮半島を通過し、3日15時に日本海で温帯低気圧となった。その後、台風から変わった温帯低気圧は4日夜に東北地方を横断し、5日には太平洋へ進んだ。

台風や台風から変わった温帯低気圧の接近・通過に伴い、沖縄地方や九州北部地方、四国地方では猛烈な雨を観測した所があったほか、沖縄地方や四国地方では9月30日から10月5日までの総降水量が多い所で300mmを超える大雨となった。また、沖縄地方で最大風速30m/s以上の猛烈な風を観測した。

この影響により、負傷者10名の人的被害が発生したほか、通信障害、住家被害があった。（被害の状況は令和2年2月4日の消防庁とりまとめや気象庁調べによる）

(6) 10月10日～26日：全国（大雨、暴風、高波）＜東日本台風（台風第19号）、低気圧、台風第20号、第21号＞

10月10日から10月26日にかけて、台風や日本付近に停滞した前線の影響により、各地で大雨、暴風、高波、高潮となった。この間、10月12日から13日にかけて台風第19号、10月20日から



※上位5地点については地点名・値を記載

第4図 総降水量分布図（期間：10月24日～10月26日）

21日にかけて台風第20号、10月23日から24日にかけて台風第21号が日本に接近した。

台風第19号の影響により、10月10日から13日までの総降水量が、神奈川県箱根で1000mmに達し、東日本を中心に17地点で500mmを超えた。特に、東日本や東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。

その後、10月24日から26日にかけて、低気圧等の影響により、関東地方から東北地方の太平洋側を中心に大雨となった。特に、千葉県や福島県では総降水量が200mmを超えたほか、3、6時間降水量の観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となった。

これらの大雨により、東日本や東北地方で河川の氾濫や土砂災害等が相次ぎ、死者は99名、行方不明者は3名に及び、家屋の全半壊は約33,000棟、浸水家屋は約31,000棟に達するなど、甚大な被害となった。気象庁は、顕著な災害をもたらした台風第19号について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和元年東日本台風」と名称を定めた。（被害の状況は令和2年2月12日の内閣府とりまとめによる）※以下、期間内に特に顕著な雨となった期間の気象概況を記載

(6-1) 10月10日から13日

10月6日に南鳥島近海で発生した令和元年東日本台風（台風第19号）は、マリアナ諸島近海を西に進み、一時大型で猛烈な台風に発達した後、次第に進路を北に変え、日本の南を北上し、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過

し、13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

東日本台風の接近・通過に伴い、10日から13日までの総降水量が、神奈川県箱根で1000mmに達し、東日本を中心に17地点で500mmを超えた。特に静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。また、東京都江戸川臨海で最大瞬間風速43.8m/sとなり観測史上1位を更新したほか、関東地方の7か所で最大瞬間風速40m/sを超えた。また、関東地方では、風速30m/s以上の猛烈な風を観測したほか、西日本から北日本にかけて、風速20m/s以上の非常に強い風を観測した。このほか、12日に千葉県市原市で、日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの竜巻と推定される突風が発生した。

(6-2) 10月24日から26日

10月23日に東シナ海で発生した低気圧が、24日から26日にかけて、西日本、東日本、北日本の太平洋沿岸に沿って進んだ。この低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込むとともに、日本の東海上を北上した台風第21号周辺の湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、関東地方から東北地方の太平洋側を中心に広い範囲で総降水量が100mmを超え、12時間降水量が10月の月降水量平年値を超えたところがあった。特に、千葉県や福島県では総降水量が200mmを超えたほか、3、6時間降水量の観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となった。また、小笠原諸島では風速20m/s以上の非常に強い風を観測した。

気候情報

2019年の台風

発生数は29個、日本への接近数は15個で、そのうち5個が上陸し、
いずれも平年を上回った

1. 概要

台風の年間発生数は平年より多い29個（平年値25.6個）であった。7月以降の発生数は26個と平年値21個を上回り、特に11月には6個の台風が発生し、台風の統計を開始した1951年以降、11月の発生数としては1964年と1991年に並び最多となった。

日本への台風の接近数は平年より多い15個（平年値11.4個）であった。

日本への台風の上陸数は平年値2.7個を上回り5個（第6号、第8号、第10号、令和元年房総半島台風（第15号）、令和元年東日本台風（第19号））となった。

第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風（本稿では台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合とする）のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風

の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第3号（1903 SEPAT セーパット）

6月24日21時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は北北東へ進んだ。その後、熱帯低気圧は東北東に進路を変え、27日21時に室戸岬の南にて台風第3号となり、28日03時に東海地方の沖合で勢力が最大となった。台風は進路を東北東に保ったまま、28日15時に日本の東で温帯低気圧となり、北北東に進んだ後、7月2日21時にベーリング海で東経180度を越えた。

(2) 台風第5号（1905 DANAS ダナス）

7月14日09時にヤップ島の北の海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、次第に進路を西に変えた後、16日15時にルソン島の東の海上にて台風第5号となった。台風は同海域で進路を北に変え、西表島と石垣島の間を抜けて東シナ海に入り、同海域で19日03時に勢力が最大になった。台風は北に進み、朝鮮半島の西岸に上陸した直後の21日03時に熱帯低気圧に変わった。

第1表 平成31年・令和元年（2019年）の台風発生数、日本への上陸数*1、日本への接近数*2と平年値及び平成30年（2018年）との比較。

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	
平年値	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
	発生数	1	1	1			4	5	9	4	1	3		29
平成30年 (2018年)	上陸数							1	2	2				5
	接近数						2	4	7	2	2	1		16
	発生数	1	1				1	4	5	6	4	6	1	29
平成31年・令和元年 (2019年)	上陸数							1	2	1	1			5
	接近数						1	2	3	5	4	1		15

(注)・平年値は、昭和56年（1981年）～平成22年（2010年）の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*1 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切つて短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*2 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「接近」という。

第2表 平成31年・令和元年(2019年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		台風期間中の最低(大)値				熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時				
		月日時	北緯 東経	月日時	北緯 東経	海面気圧	風速	強風半径	月日時	北緯 東経	種類	月日時	北緯 東経			
1	PABUK	12 31 15	7.6 111.9	1 1 15	6.3 110.2	1 4 15	926	1 4 15	23	1 4 03	NW:330 SE:220	1 5 03	8.4 99.4	TD	1 5 03	域外
2	WUTIP	2 18 21	4.7 162.5	2 20 03	4.5 155.5	2 24 09	990	2 24 09	55	2 24 09	440	2 28 15	17.6 135.6	TD	3 2 15	18.9 133.1
3	SEPAT	6 24 21	17.9 127.7	6 27 21	32.6 134.7	6 28 09	994	6 28 09	20	6 28 09	SE:280 NW:110	7 4 15	21.6 105.4	TD	7 2 21	域外
4	MUN	7 2 03	18.0 114.0	7 2 15	18.8 112.4	7 3 21	992	7 4 09	18	7 2 21	SE:900 NW:440	7 4 15	21.6 105.4	TD	7 5 03	23.1 103.8
5	DANAS	7 14 09	12.6 136.7	7 16 15	17.1 124.9	7 20 09	985	7 19 21	23	7 18 21	SE:650 NW:500	7 27 15	35.6 127.2	TD	7 29 21	40.5 152.9
6	NARI	7 24 09	23.0 137.0	7 26 03	28.5 137.3	7 27 03	998	7 27 09	18	7 27 07	E:390 W:220	8 3 21	20.2 105.4	TD	8 4 15	20.5 102.1
7	WIPHA	7 30 09	17.1 116.0	7 31 03	18.4 114.2	8 2 15	985	8 2 15	23	8 1 15	E:500 W:390	8 7 09	37.9 129.0	TD	8 11 15	42.5 172.2
8	FRANCISCO	8 1 09	17.4 154.7	8 2 21	22.3 151.2	8 6 05	970	8 6 05	35	8 5 18	N:280 S:170	8 13 03	37.0 120.0	TD	8 15 03	38.4 121.9
9	LEKIMA	8 2 15	14.5 134.3	8 4 15	16.9 130.6	8 9 00	925	8 9 00	55	8 11 09	E:700 W:460	8 16 21	43.0 138.0	L	8 17 21	45.1 141.0
10	KROSA	8 5 09	15.6 147.7	8 6 15	18.5 142.8	8 15 00	965	8 9 21	40	8 13 09	S:1100 N:650	8 26 03	24.8 113.0	TD	8 26 15	25.7 111.1
11	BAILU	8 19 21	13.0 134.0	8 21 15	14.6 131.3	8 24 15	985	8 24 21	25	8 23 09	560	8 30 09	16.8 105.1	TD	8 31 09	17.9 102.1
12	PODUL	8 24 15	8.4 142.5	8 28 09	16.5 117.3	8 29 21	992	8 29 21	20	8 28 09	N:440 S:220	9 8 09	47.3 130.5	L	9 12 09	域外
13	LINGLING	8 31 09	6.2 133.7	9 2 09	15.2 126.1	9 6 00	940	9 6 00	50	9 8 03	E:560 W:300	9 3 21	16.4 108.5	TD	9 6 15	18.6 112.5
14	KAJIKI	8 30 09	18.2 126.3	9 2 21	17.2 108.4	9 3 03	996	9 3 15	18	9 3 15	NE:560 SW:220	9 10 09	39.7 148.8	L	9 11 21	46.8 175.9
15	FAXAI	9 2 09	15.9 167.9	9 5 03	18.6 156.7	9 8 21	955	9 8 21	45	9 7 12	NE:330 SW:220	9 16 21	25.0 142.9	TD	9 17 09	28.9 142.7
16	PEIPAH	9 13 03	11.7 159.2	9 15 09	15.4 149.7	9 16 15	1000	9 16 15	18	9 16 15	E:370 W:190	9 23 09	37.6 134.2	L	9 23 21	41.0 139.8
17	TAPAH	9 17 09	20.0 128.7	9 19 09	22.4 128.7	9 22 06	970	9 22 06	35	9 20 21	SE:650 NW:500	10 3 15	38.0 131.0	L	10 5 21	43.4 151.7
18	MITAG	9 24 21	9.6 155.0	9 28 09	15.7 132.8	10 1 03	965	10 1 03	40	10 1 15	560	10 13 12	41.0 147.0	L	10 15 03	域外
19	HAGIBIS	10 5 03	15.7 164.4	10 6 03	15.1 157.4	10 10 15	915	10 10 15	55	10 12 00	E:750 W:650	10 21 15	31.3 135.3	L	10 22 09	32.1 137.9
20	NEOGURI	10 15 09	15.8 136.4	10 17 09	18.6 130.3	10 20 09	970	10 20 09	40	10 21 15	NW:260 SE:220	10 25 21	35.1 148.6	L	10 26 09	38.5 149.4
21	BUALOI	10 18 15	8.7 161.2	10 19 15	10.6 155.0	10 23 03	935	10 23 03	50	10 25 15	NE:560 SW:330	10 31 15	13.8 106.1	TD	11 1 03	13.7 104.0
22	MATMO	10 29 03	11.9 116.6	10 30 03	13.3 112.6	10 30 21	992	10 31 03	25	10 31 09	N:480 S:220	11 9 09	31.2 160.8	L	11 10 15	32.7 170.2
23	HALONG	11 1 21	9.6 162.2	11 2 21	13.4 157.7	11 6 15	905	11 6 15	60	11 5 09	NE:440 SW:280	11 17 21	26.2 156.7	L	11 18 09	24.0 158.5
24	NAKRI	11 4 09	12.7 113.7	11 6 03	13.5 116.0	11 8 21	975	11 8 21	35	11 8 03	NW:500 SE:390	11 20 09	17.4 121.7	TD	11 22 09	11.4 114.0
25	FENGSHEN	11 10 03	12.6 173.4	11 12 09	14.8 162.5	11 16 21	965	11 16 21	45	11 17 09	NW:280 SE:190	11 22 21	24.6 125.3	TD	11 25 09	32.8 136.7
26	KALMAEGI	11 10 03	14.3 136.0	11 14 21	16.4 127.6	11 19 21	975	11 19 21	35	11 15 03	NW:440 SE:280	11 22 21	24.6 125.3	TD	12 6 09	11.4 112.9
27	FUNG-WONG	11 17 21	10.6 143.6	11 20 09	16.1 128.2	11 21 15	990	11 21 15	30	11 21 21	NE:330 SW:280	12 28 09	14.4 115.2	TD	12 29 09	14.3 111.7
28	KAMMURI	11 24 21	8.6 159.7	11 26 09	10.7 149.2	12 3 03	950	12 3 03	45	11 29 09	500	12 28 09	14.4 115.2	TD	12 29 09	14.3 111.7
29	PHANFONE	12 19 21	4.7 151.4	12 22 21	8.7 136.9	12 25 03	970	12 25 03	40	12 26 21	N:220 S:170	12 28 09	14.4 115.2	TD	12 29 09	14.3 111.7

表中の日はすべて日本時(JST)。
 「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。
 (但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)
 強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。
 種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。
 域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。
 台風第1号の「熱帯低気圧の発生日時」は2018年12月31日15時。

第3表 平成31年・令和元年(2019年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧, 温帯低気圧の期間は除く)。

台風 番号	日本への影響 (台風が中心が日本から概ね500km以内に入 った場合)				日本への接近 (台風が中心が日本から概ね300km以内に入 った場合)				上陸, 通過
	月日		地域	月日		地域			
	始	終		始	終				
3	6/27	6/28	西日本, 東日本, 東北地方		6/27	6/28	西日本, 東日本, 東北地方		上陸, 通過なし.
5	7/17	7/21	沖縄・奄美, 九州南部, 九州 北部地方, 中国地方		7/18	7/19	沖縄地方		上陸, 通過なし.
6	7/26	7/27	西日本, 東日本, 東北地方		7/26	7/27	四国地方, 中国地方, 近畿地 方, 東日本		27日07時頃, 三重 県南部に上陸した.
8	8/3	8/7	奄美地方, 西日本, 東海地方, 伊豆諸島, 小笠原諸島		8/4	8/7	九州南部, 九州北部地方, 四 国地方, 中国地方, 伊豆諸島, 小笠原諸島		6日05時頃, 宮崎 県宮崎市付近に上 陸した.
9	8/7	8/10	沖縄・奄美		8/8	8/9	沖縄地方		上陸, 通過なし.
10	8/10	8/16	沖縄・奄美, 西日本, 東日本, 北日本		8/14	8/16	西日本, 東海地方, 北陸地方, 北日本		15日11時過ぎ, 愛 媛県佐田岬半島を 通過した. 15日15時頃, 広島 県呉市付近に上陸 した.
11	8/23	8/25	沖縄地方						上陸, 通過なし.
13	9/3	9/7	沖縄・奄美, 九州南部, 九州 北部地方		9/4	9/6	沖縄地方		上陸, 通過なし.
15	9/7	9/10	四国地方, 中国地方, 近畿地 方, 東日本, 北日本		9/7	9/9	近畿地方, 東日本, 東北地方		9日03時前, 三浦 半島付近を通過し た. 9日05時前, 千葉 県千葉市付近に上 陸した.
16	9/16	9/16	伊豆諸島, 小笠原諸島		9/16	9/16	伊豆諸島, 小笠原諸島		上陸, 通過なし.
17	9/19	9/23	沖縄・奄美, 西日本, 東海地 方, 関東甲信地方, 北陸地方		9/20	9/23	沖縄地方, 西日本, 北陸地方		上陸, 通過なし.
18	9/29	10/3	沖縄地方, 西日本		9/30	10/3	沖縄地方, 九州北部地方, 中 国地方		上陸, 通過なし.
19	10/10	10/13	四国地方, 中国地方, 近畿地 方, 東日本, 北日本		10/12	10/13	近畿地方, 東日本, 北日本		12日19時前, 伊豆 半島に上陸した.
20	10/19	10/21	沖縄・奄美, 西日本, 東海地 方, 伊豆諸島, 小笠原諸島		10/20	10/21	沖縄・奄美, 九州南部, 四国 地方, 近畿地方		上陸, 通過なし.
21	10/23	10/25	伊豆諸島, 小笠原諸島		10/23	10/24	伊豆諸島, 小笠原諸島		上陸, 通過なし.
25	11/16	11/16	伊豆諸島, 小笠原諸島						上陸, 通過なし.
27	11/21	11/22	沖縄・奄美		11/22	11/22	沖縄地方		上陸, 通過なし.

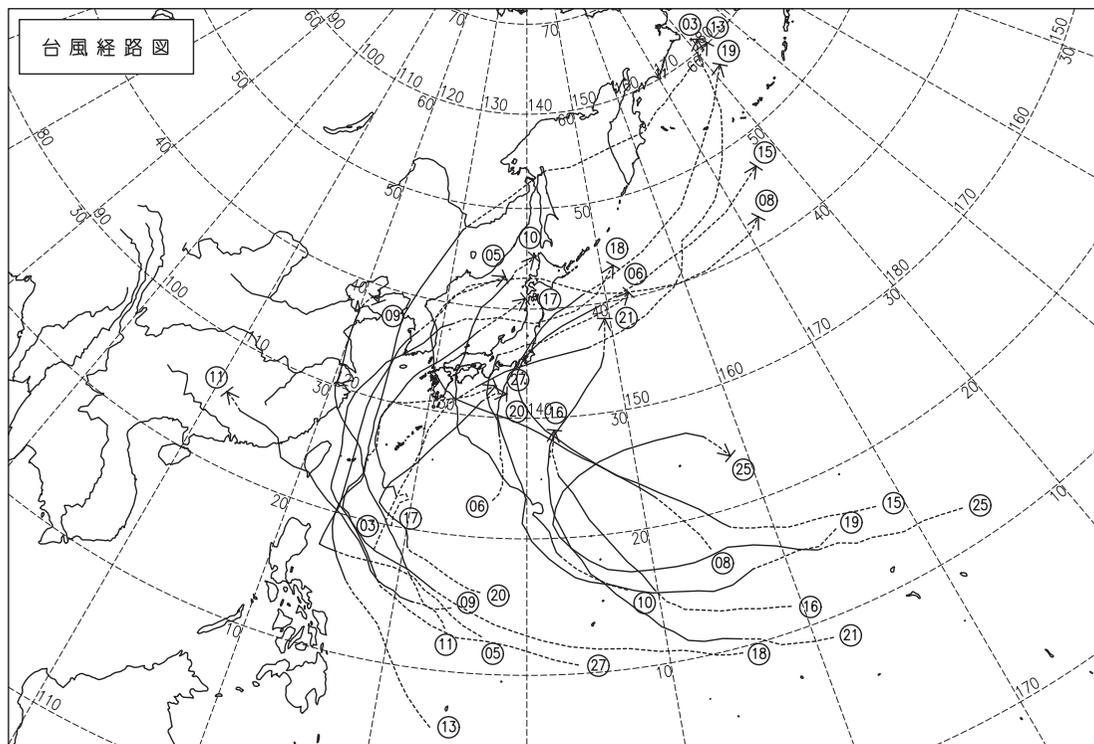
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

熱帯低気圧は21日21時に日本海で温帯低気圧に変わり、23日21時に同海域で消滅した。

(3) 台風第6号(1906 NARI ナーリー)

7月24日09時に沖ノ鳥島の北海上で発生した熱帯低気圧は北東に進んだ後北に進路を変え、26日03時に小

笠原諸島の西海上にて台風第6号となり、勢力が最大になった。台風は勢力を保ったまま北に進み、27日07時頃に三重県南部に上陸し、27日15時に岐阜県付近で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は東北東に進路を変えた後28日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わり、東北東に進路を保ったまま、30日03時に日本のは



丸で囲った数字は台風番号である。→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

第1図 台風経路図。

るか東の海上で消滅した。

(4) 台風第8号 (1908 FRANCISCO フランシスコ)

8月1日09時に南鳥島の南で発生した熱帯低気圧は北西に進み、2日21時に南鳥島の南西で台風第8号となった。台風は北西に進路を保ったまま、5日21時に四国の南で勢力が最大になり、6日05時頃、強い勢力で宮崎県宮崎市付近に上陸した。台風は進路を北に変えた後、朝鮮半島を通過し、7日09時に日本海で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は転向して東向きに加速し、9日03時に同海域で温帯低気圧に変わった後、11日21時にアリューシャンの南で消滅した。

(5) 台風第9号 (1909 LEKIMA レキマー)

8月2日15時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は初め西に進み、すぐに北北西に進路を変え、4日15時に同海域で台風第9号となった。台風は5日から急速に発達し、8日21時に石垣島付近で勢力が最大になった後、北北西の進路を保ったまま、東シナ海で徐々に勢力を弱めた。台風は10日03時頃に華中に上

陸した後、進路を北に変え、12日に山東半島で反時計回りに1回転した後、13日03時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は14日09時に遼東半島付近で温帯低気圧に変わり、15日09時に黄海で消滅した。

(6) 台風第10号 (1910 KROSA クローサ)

8月5日09時にサイパン島の東海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、6日15時にフィリピン海東部にて台風第10号となった。台風は速度を落とし、8日15時に勢力が最大となり、反時計回りに半回転した後、再び北西に進んだ。台風は奄美群島のはるか東で北に進路を変え、四国と九州の間を抜けて、15日11時過ぎに愛媛県佐田岬半島を通過した後、15日15時頃に広島県呉市付近に上陸した。台風は日本海に進み、16日21時に温帯低気圧に変わり、18日03時に北海道北部の西の沖合で消滅した。

(7) 台風第11号 (1911 BAILU バイルー)

8月19日21時にパラオの北の海上で発生した熱帯低気圧は北西にゆっくりと進み、21日15時に同海域で台

風第11号となり、引き続き北西に進んだ。台風は、23日03時にルソン島の東の海上で勢力が最大となり、次第に西北西に進路を変えた後、24日に台湾を通過した。台風は西北西に進路を保ったまま、25日09時頃に華南に上陸し、26日03時に熱帯低気圧に変わった後、26日21時に同地域で消滅した。

(8) 台風第13号 (1913 LINGLING レンレン)

8月31日09時にカロリン諸島付近で発生した熱帯低気圧は、初めは北西に進み、9月2日09時にフィリピンの東で台風第13号となり、進路を北に変えた。台風は沖縄の南の海上で速度を落とし、5日15時に宮古島付近で勢力が最大となった。台風は加速して東シナ海を北に進み、7日に朝鮮半島に上陸し、8日09時に中国東北区で温帯低気圧に変わった後、次第に進路を東に変えた。低気圧はベーリング海に進み、12日09時に東経180度を越えた。

(9) 令和元年房総半島台風 (台風第15号) (1915 FAXAI ファクサイ)

9月2日09時にウェーク島の南海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進んだ後、5日03時に南鳥島の南東海上で台風第15号となり、北西に進路を変えた。台風は北西に進路を保ったまま、急速に発達し、8日03時に八丈島の南で勢力が最大となった後、北北西に進路を変えた。台風は北北東に転向し、9日03時前に三浦半島付近を通過して、9日05時前に千葉県千葉市付近に上陸した。台風は日本の東を北東に進み、10日09時に温帯低気圧に変わり、東北東に加速して12日03時にアリューシャンの南で消滅した。気象庁は、この台風について「令和元年房総半島台風」と名称を定めた。

(10) 台風第16号 (1916 PEIPAH ペイパー)

9月13日03時にマーシャル諸島付近で発生した熱帯低気圧は、初めは西に進み、次第に進路を北西に変えた。熱帯低気圧は15日09時にマリアナ諸島の東の海上で台風第16号となり、勢力が最大となった。台風は16日21時に小笠原諸島付近で熱帯低気圧に変わり、進路を北に変えて、17日15時に父島付近で消滅した。

(11) 台風第17号 (1917 TAPAH ターファー)

9月17日09時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧はゆっくりと北に進んだ後、19日09時に同海域で台風第17号となり、北西に進路を変えた。台風は21日03時

に宮古島付近で勢力が最大となった後、勢力を維持したまま東シナ海を北へ進んだ。台風は北東に進路を変えて徐々に勢力を落とし、23日09時に日本海で温帯低気圧に変わった後、24日03時に北日本の日本海沿岸で消滅した。

(12) 台風第18号 (1918 MITAG ミートク)

9月24日21時にトラック諸島付近で発生した熱帯低気圧は、初め西北西に進んだ後、進路を北西に変えた。熱帯低気圧は、28日09時にフィリピンの東で台風第18号となった後、進路を北に変え、30日21時に与那国島の西で勢力が最大となった。台風は、進路を北東に変え、10月2日21時過ぎに朝鮮半島に上陸した後、3日15時に日本海で温帯低気圧に変わり、6日03時に日本の東海上で消滅した。

(13) 令和元年東日本台風 (台風第19号) (1919 HAGI-BIS ハギビス)

10月5日03時にウェーク島の南海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、6日03時に南鳥島の南で台風第19号となった。台風は急速に発達し、7日21時にマリアナ諸島付近の海上で勢力が最大となった。その後、台風は次第に北に進路を変えて概ね北に進み、12日19時前に伊豆半島に上陸した。台風は関東地方を通過して太平洋に進み、13日12時に北海道の南東で温帯低気圧に変わった後、15日03時に東経180度を越えた。気象庁は、この台風について「令和元年東日本台風」と名称を定めた。

(14) 台風第20号 (1920 NEOGURI ノグリー)

10月15日09時に沖ノ鳥島の南海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、17日09時に沖ノ鳥島の西で台風第20号となった。台風は20日03時に沖縄の南で勢力が最大となった後、次第に進路を北東に変え加速した。台風は21日21時に本州の南で温帯低気圧に変わり、22日15時に消滅した。

(15) 台風第21号 (1921 BUALOI ブアローイ)

10月18日15時にマーシャル諸島付近で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、19日15時にポンペイ島の北西の海上で台風第21号となった。台風は進路を徐々に北西に変え、22日15時に勢力が最大となった後、北に進路を変えて、24日09時頃に父島付近の海上を通過した。台風は、北東に加速した後、25日21時に日本の東

海上で温帯低気圧に変わり、26日15時に消滅した。

(16) 台風第25号 (1925 FENGSHEN フンシェン)

11月10日03時にマーシャル諸島付近で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、12日09時に同海域で台風第25号となった。台風は、西北西に進路を保ったまま約2日間発達し続けた後、次第に進路を北に変えて、急速に発達した。台風は15日15時に父島の南で勢力が最大となった後、次第に進路を北東に変えた。その後、台風は東に進路を変えて、勢力を落とし、17日21時に南鳥島の北東海上で温帯低気圧に変わった後、南東に進み、18日15時に南鳥島の東で消滅した。

(17) 台風第27号 (1927 FUNG-WONG フォンウォン)

11月17日21時にマリアナ諸島付近で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、20日09時にフィリピンの東海上で台風第27号となった。台風は21日09時に八重山諸島の南で勢力が最大となり、進路を北に変えた後、すぐに北北東に進路を変えて急速に勢力を落とし、22日21時に宮古島付近で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は24日03時に東シナ海で温帯低気圧に変わり、東北東に進路を変えて、25日15時に紀伊半島沖で消滅した。